



海上保安学校
JAPAN COAST GUARD SCHOOL

海上保安のエキスパートとして 知識と技術、心身の練成を図る教育機関

多様な海上保安業務に携わる 海上保安官

海上での治安維持や領海警備、人命救助、環境保全、災害対応、海上交通の安全確保などさまざまな業務を担う海上保安庁。海上の警察であり、消防でもある海上保安庁の職員は、まさに「海の何でも屋」として海上の安全を守っています。その海上保安官を養成する教育機関が京都府舞鶴市にある海上保安学校です。同校卒業生は全海上保安官の約7割を占め、卒業後は巡視船艇の乗組員など海上保安の第一線で業務に当たり、能力と適性に応じて、潜水士など特殊任務を担うスペシャリストになる道もあります。

海上での生活を模した全寮制で 任務への自覚と連帯意識を育む

海上保安学校では、公平な公務員としての品格・マナーはもちろん、海上保安業務に必要な知識・技能を習得させ、心身の鍛錬を行っています。平成28年12月時点では18歳から25歳*までの約600人が全寮制で寝食を共にしながら、さまざまな訓練や授業を受けています。寮生活は1室12名で、6時30分の起床に始まり、

実際に行われている
授業・訓練の
一部を紹介!!

ロープ結びの基礎から、
練習船「みうら」での
実践訓練まで



調理実習

▶船舶運航システム課程・主計コース

食事は過酷な現場の楽しみであり、健康を保つ重要な要素。栄養学や献立づくりなどの座学に始まり、実際に調理も行います。



乗船実習

▶全課程

練習船「みうら」に乗船し、実際に航海しながら巡視船業務に即した実習を行います。



R A S

▶船舶運航システム課程・航海コース

シミュレーターを使用し、レーダーによる他船との衝突危険の判断、適切な警報等の設定など、航海当直の技能訓練を行います。



内燃実習

▶船舶運航システム課程・機関コース

実際にエンジンを稼働させたり、分解して、機械の仕組みや限られた環境下での修理法などを学びます。



小型船の背後に浮かぶのは練習船「みうら」(約3,000t)

小型実技

▶全課程

小型船舶操縦士の資格取得のための実習を行います。巡視船の搭載艇などの操船にも活かされます。





特集

安全・安心を守る 保安専門職員の養成

※ 高等学校または中等教育学校卒業から5年を経過していない者が入学対象。

カリキュラムは、将来の業務別に4課程が設けられ、情報システム課程は2年間、他課程は1年間です。全課程共通科目として法学一般や国際法、英語、小型船舶操縦などがあり、加えて各課程の専門科目を習得します。在学中に一級小型船舶操縦士の資格を取得することができる他、五級海技士(筆記)、船舶料理士、航空無線通信士、第三級海上無線通信士、国際水路測量技術者資格基準B級など、各課程・コース別に応じて業務に必要な

将来の業務を意図した4課程



寮室内における自習中の様子。奥は2段ベッドの並んだ寝室。



朝の体操で1日の集団生活が始まる。

食事や入浴などの時間も決められているという厳しいもの。自習や課外活動、外出などの時間も認められてはいますが、規律正しい集団生活を送ることが求められています。これは海上での船という限られたスペースで業務遂行を想定したものであり、全てを自力で賄う生活力を身に付けるとともに、チームで行動する連帯意識や任務に対する責任感を育むことを目的としています。



春季行軍・遠泳訓練・早朝訓練など

季節ごとにさまざまな訓練があります。春には約43kmを歩渉する「春季行軍」、夏には約5.6kmを泳ぎきる「遠泳訓練」、冬には日の出前から長距離を走ったり、裸足でカッターを操船する「早朝訓練」なども行います。いずれもチームで行い、過酷な場でも協力し合う重要性を学びます。

運用実習

▶船舶運航システム課程

甲板作業などで必要となるロープの結び方の実習。15種各15秒で正確に結べなければいけません。しっかりと結ばれているか教官が厳しくチェック。



指紋・写真・制圧

▶海洋科学課程以外

「指紋の採取」「証拠的確な写真撮影」「犯人等の制圧」など、海上保安官として必要な知識・技術を習得します。

無線設備

▶情報システム課程

海上保安庁の情報通信に必要な理論を学びます。



端艇(たんでい)

▶全課程

カッターと呼ばれる手漕ぎのボートを重いオールでこぎます。



海図編集

▶海洋科学課程

航海に欠かせない水深などの情報を、海図として作成するための編集技術を学びます。



ECDIS

▶船舶運航システム課程・航海コース

船舶の航海で利用する電子海図情報表示装置の取り扱いなどを学びます。



海上保安学校
JAPAN COAST GUARD SCHOOL

な資格を取得することができます。

卒業後、船舶運航システム課程および情報システム課程は、各管区^{*}の巡視船艇や海上保安部へ配属され、航空課程は航空基地に配属後さらに実機による資格取得訓練を行い、海洋科学課程は本庁や管区本部へ配属されます。いずれも一定期間現場で業務を経験した後、選抜によって海上保安大学校（広島県呉市）の特修科に進み、幹部職員となる道も開かれています。

領海問題や災害への対応急増で 求められる即戦力の育成

昨今、領海警備や治安維持、災害対応、そして最近では新島・西之島^{*}誕生の調査業務まで、各場面で海上保安官の必要性が再認識されています。組織の強化を図る中、人員増強は大きな課題であり、即戦力となる人材の育成が求められています。その意味でも、わずか1〜2年という短期間で海上保安官に不可欠な知識・技能、強靱な心身、生活力や連携力などを習得させ、さらに一人の社会人として現場で自ら学び成長する力を育む教育機関として、これまで以上に海上保安学校が担う役割は重要となっています。

^{*} 全国を11のブロック（管区本部）に分けた管轄区



ふうこうめいび
風光明媚な環境にある海上保安学校（京都府舞鶴市）

海上保安学校で学ぶ4課程（3コース）

課程	期間	教育内容	
船舶運航システム課程	航海コース	1年	巡視船等の運航を担当する航海士を育てるコース。操船技術および航海計器の取り扱い等に関する基礎を習得します。
	機関コース		巡視船等の機関運転、整備を担当する機関士を育てるコース。船舶用機関、燃料および電気機器等に関する基礎を習得します。
	主計コース		巡視船艇内において経理や調理を担当する主計士を育てるコース。総務、経理補給業務および調理等に関する基礎を習得します。
航空課程	1年	海上保安庁の航空機のパイロットになるための知識・技能を習得します。	
情報システム課程	2年	情報通信・航海援助に関する知識・技能を習得します。	
海洋科学課程	1年	海洋に関する科学的調査を行い、航海の安全や防災、環境保全などに必要な情報提供（海図、HP等）を行うための知識・技能を習得します。	

^{*}他にも海上保安官として必要な海上犯罪取締等の知識も習得します。（海洋科学課程を除く）

卒業生 インタビュー

学校での1年間は、みんなと苦楽を共にすることで人として成長することができたと感じています



尾上裕香 航海士補
（大阪府出身）

平成20年10月船舶運航システム課程航海コース入学。卒業後は第八管区舞鶴海上保安部巡視船「だいせん」に配属。現在は第八管区浜田海上保安部巡視艇「やなかぜ」所属。

私は巡視艇の乗組員として、警備救難などの業務に携わっており、ひとたび海で事件・事故が発生すると昼夜を問わず現場に出動し、その対応に当たります。また、第八管区初の女性制圧指導員として、訓練時には訓練メニューを考えて指導もしています。

海上保安官については、映画「海猿」でその存在を知りました。当時警察官の仕事にも興味があったので、海を舞台に警察官のような仕事をすることに魅力を感じ、海上保安官を目指すようになりまし。学校では寮生活を通じて多くのことを得ましたが、現場に赴任してからは自分の親と同世代、それ以上の方と仕事をすることになるので、ここで礼儀やマナーなど社会人としての基礎が養われて良かったと思います。今後は語学研修に参加し、国際捜査官を目指して業務に励みたいと思っています。

これから海上保安官を目指す方に伝えたいことは、定めた目標への努力を惜しまなければ、夢は必ず叶うということ。諦めずに夢を実現させてください。私も夢に向かって頑張ります。



航海コース49期(23歳)／機関コース49期(20歳)
／主計コース49期(24歳)／航空課程15期(20歳)
／情報システム課程24期2年(24歳)／海洋
科学課程25期(20歳)

在校生に聞きました!

私たちの本音と決意

訓練や授業に取り組み真剣なまなざし、キビキビとした身のこなしからは、すでに海上保安官としての自覚を感じられます。厳しい全寮生活や訓練について、また海上保安官を目指した理由や将来の目標などについて聞きました。

海上保安官を目指したきっかけは?

- 得意の科学系分野の仕事に就きたいと調べる中で海上保安学校の海洋科学課程を知りました。海上汚染や西之島誕生などの新しい事象に興味をそそられたことも大きいです。
- 中学生の頃から海上保安官に憧れていました。高校3年の時にオープンキャンパスに来て決意が固まり、予備校を経て入学しました。
- 私が入学したのはパイロットになるためです。民間の航空会社も検討しましたが、海上保安庁にはヘリや小型機が活躍し、学校には航空課程があることを知り入学を希望しました。
- 父が公安系の仕事で「いつかは自分も」と漠然と思っていました。

高校卒業後は警備の仕事をしていたのですが、尖閣諸島問題や東日本大震災などがあり、海上保安官になることを決意しました。

● 私も東日本大震災の影響が大きかったです。海の怖さを

目の当たりにして、そこで活躍する海上保安官の仕事に興味を持ちました。特に災害時の情報の重要性を実感し、情報システム課程を選びました。

● 同じく東日本大震災がきっかけです。海上保安官の活躍をテレビなどで見て、人を助ける仕事をしたと思うようになりました。

入学して大変だったことは?

- あえて辛かったことをあげるならプールでの水泳授業です。楽に泳ぐ方法を指導いただき、3kmを泳ぎきりました。5.6kmを泳ぐ遠泳訓練以上にうれしかったです。
- 自分はその遠泳訓練が苦い思い出です。体力には自信があり、泳ぎも苦手ではないのですが、低体温症になり完泳できませんでした。ただ、海の怖さを肌で感じられたことは貴重な経験でした。

全寮制の団体生活についての感想

- 私は実家で何もしない方だったので、慣れるのに1カ月位かかりました。シャワーやトイレの順番待ちが大変でした。
- 何をするにも時間がタイトで大変でした。今はすっかり慣れて時間内にできるのですから不思議です。
- 慣れると楽しいです。自由時間に同期おしゃべりしたり、悩みを先輩に相談したり、女子学生は皆結束も固いです。
- 船内生活の訓練と思えば苦になりません。雑務を全て自分でやるのはプライベートにも活

かせますし、何より親のありがたみを実感しました。

● 親に生活態度が良くなったと褒められます(笑)。休日の実習で学んだ料理を実家で作ったところ、大変喜ばれました。

将来の目標について

- 潜水士になりたいと思っていますが、その前に知識や会話力に磨きをかけ、安全指導などにも関わられたらと思っています。また、外国船と接する機会も増えると思うので、英語力も身に付けたいです。
- まずは現場で三級海技士を取れるよう、知識・技能を極めたいです。それと、まだ女性が少ない職場なので、コツコツと成果を残し「女性にもできる」ことを実証したいです。
- 海洋科学の知識は多分野で活かされていますが、私自身は特に海の汚染調査や環境保全に関する仕事をしたいと思っています。
- 主計士として経理や船舶衛生などの技能や知識を習得し、現場の士気を高める食事は特においしく作れるようになります。さらに将来は、外国語を習得し、国際捜査官となることを目指しています。



食堂で一斉にとる食事の風景。食事時間はわずか15分!